

セキオノコバ

約970m

稜線上にたたずむ極上の癒し空間



ハートに見えなくもない

二重山稜の織りなす地形の妙

セキオノコバとは山ではなく静ヶ岳近くの県境稜線上にある場所のことであり、いくつかの池が点在している。二重に走る稜線に池が出来たといった具合で、地形的にも興味深いエリアだ。それにしても不思議な名前、普通に考えればセキ尾のもとにあるコバ(木場・木材の集積場、一服にも適した地形のため、休憩場所のようなニュアンスも)と思うが、付近の尾根にセキ尾という名は不明(鈴鹿では木和田尾や丸尾など、尾根を尾と呼ぶ所も多い)。他には堰のような尾根にせき止められたコバではないかとする説もある。ともあれ横目を通り過ぎるにはあまりにもつたい居心地の良い場所である。草付きの地面に、まばらにそびえる落葉広葉樹たち、静かな日には鏡のような池面(イケメン)にも並んだ木立ち。初夏にはモリアオガエルの卵塊が水面に張り出す枝先にここぞとばかりにぶら下がる。「コロッココロッココロッコ」。「静かにしていると親ガエルも鳴きだした。立ち枯れた木にはキツツキの巣穴も開いている。時折響くは、ドラミング、「トロロロロ」アカゲラかな?アオゲラかな?キツツキは1秒間に約20回程もつづけるらしい。そんな山の音に耳を傾けて、ただぼくと過ごすだけでいい。そよとくすぐる風を頬に感じながら、呼吸は深く静かに体中ゆきわたるイメージで。そんな時間が似合う場所こそがこのセキオノコバである。宇賀溪から登るとややロングコースとなるので、石樽峠から竜ヶ岳へ入るのがのんびり出来る。時間があれば静ヶ岳(山頂は惜しくも滋賀県)へ足をのばすのもいい。竜ヶ岳方面の展望が得られる。

ブナを愛でに寄り道したい

竜ヶ岳方面へ戻り、分岐を宇賀溪方面へ寄ってみたい場所がある。進めばすぐに左手に現れる、ブナの木々だ。竜で話題になるのはシロヤシオばかりだが、このブナもどうして、見応えがあるじゃない!なぜ人はかくもブナという木に魅了されるのだろうか、木漏れ日のシャワーを全身で受け止めれば分かるのだろうか。付近を散策すると斜面には雪の重みに耐えかねた根曲がりブナもあり、敬意を表して腰掛けさせてもらう。命の逞しさを感じずにはいられないはずだ。山にいだかれる、そんな想いを具現化してくれる一日となりますように。



は、波紋使いかッ!?
このモリアオガエルッ!



竜ヶ岳の根曲がりブナ

